

祭 今年の夏に行われた盆踊り・納涼祭



今泉自治会(7/25, 26)



古市町会 (8/2, 3)



多摩川ハイム自治会 (8/2)

矢口二丁目15号館自治会(8/3, 4)
矢口二丁目16号館自治会

矢口南町会 (8/22, 23)



東京サーハウス自治会 (8/23)



シエルズガーデン自治会 (8/23)



アルス多摩川自治会 (8/30)

ソーラン節 エイサー そうめん流し

多摩川小学校の児童が踊ってくれました



今泉自治会(7/25)



矢口南町会(8/22)

矢口二丁目15号館自治会(8/3, 4)
矢口二丁目16号館自治会

下丸子三丁目町会(7/26)

六所神社例大祭行われる

8月2日(土)3日(日)下丸子の氏神様六所神社で例大祭が行われました。町会ごとに大人神輿、子ども神輿、山車が町内を巡行して盛り上げ、コロナ禍で休止していた奉納演芸大会や里神楽が再開されました。

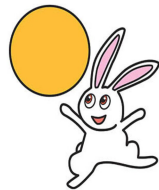
クライマックスは3日の夕刻、下丸子三丁目町会、下丸子四丁目町会、下丸子東町会の3町会の神輿が続行で宮入りする珍しい光景に、境内の熱気は最高潮に達しました。

今後に大きな弾みをつけた素晴らしいお祭りでした。

宮入りした
3町会の神輿再開された
奉納演芸大会

《行事案内》

- ★多摩川清掃工場環境フェア2025
日時:10月19日(日)10時~14時30分
- ★おおたオープンファクトリー
日時:10月25日(土) 時間は各工場による
- ★矢口子どもフェスティバル2025
場所:矢口特別支援学校
日時:11月9日(日)10時~15時 雨天決行
- ★東京文化財ウィーク2025「双盤念仏」特別公開
場所:今泉延命寺
日時:11月9日(日)14時~16時



《編集後記》

秋彼岸も過ぎて、すでに10月。朝晩聞こえる虫の声や秋物と入れ替わった街中のファッションディスプレイに季節の移ろいを感じます。日々早くなる日没と遅くなる夜明け。暑さが収まらない中にも暦は確実に動いています。季節の変わり目は体調を崩しがちです。どうぞご自愛ください。

(阿部 雅之)



大田区では「18色の緑づくり」を行っており、矢口地区では菜の花とジニア（百日草）を育てています。



発行 地域力推進矢口地区委員会
編集 矢口トーク編集委員会
事務局 矢口特別出張所地域力推進係
〒146-0093 大田区矢口2-21-14
電話(3759)4686 FAX(3759)1492
ホームページアドレス
https://www.city.ota.tokyo.jp/kamata/ts_yaguchi



過去の矢口トークはこちら

矢口特別出張所管内の人口(10月1日現在)

人口	44,449名	世帯	24,289世帯
----	---------	----	----------

多摩川小学校防災活動拠点 風水害訓練

7月28日(月)19時より矢口区民センターで風水害訓練が行われました。

多摩川小学校は風水害時の緊急避難場所ではありません。震災時と違い、風水害時の場合は近隣の矢口中学校、矢口西小学校、矢口小学校等どこに避難してもよいことになっています。多摩川小学校の代わりに緊急避難場所として、風水害時のみ矢口区民センターが開設されます。

訓練は風水害時のマニュアルを参考に、避難者受入訓練を行い、避難者の受付や誘導の流れを確認する内容です。

参加者は3つの班に分かれ、以下の(1)~(3)の避難者受入作業をローテーションで行いました。

(1) 検温・誘導

- ① 1階のロビーで検温を行う
その際に、列の整理もあわせて行う
- ② 健康観察者の対応を行う
・発熱ありの時→健康観察室に別ルートで誘導
・発熱なしの時→記載台で問診票を記入
完了次第、2階受付に誘導

(2) 受付・誘導

- ① 問診票の確認
- ② 要配慮者、健康観察室の確認・専用スペースへの案内
- ③ 一般避難スペースへの誘導
ペットありの時はペットスペースへ誘導
- ④ 避難者の待機列の整理

(3) 避難者役

検温場所、問診票記入場所、2階の受付場所はとても狭い。停電時の車イスの移動等に課題は多く、訓練の継続で話し合いながら改善され、次回の訓練に繋がっていきます。



風水害訓練の様子

東京防災セミナー 古市町会

7月6日(日)に八幡神社社務所で『首都直下型地震への地域の備え・災害時における「共助」の重要性』のセミナーが行われました。講師は東京防災学習セミナー矢部講師で参加人数は25名でした。

直下型地震・震度7・家屋倒壊の動画を鑑賞し、想定される被害の様子や備えについての講義を受けました。また、防災アプリの活用や防災ブックを持ち出し袋に入れて置くとよいとの提案もありました。そして、「防災の三本柱」である「自助」(自らの生命は自らが守る)「共助」(自分たちのまちは自分たちで守る)「公助」(行政機関による救出救助など)の講義の中に防災の担い手の不足問題がありました。

防災訓練や勉強会に参加することで「共助」の際に助け合うことで助かる命が増えると思いました。しかし、若い層や働き世代の参加が乏しいのが現状です。これを打開するために古市町会は7月27日(日)のラジオ体操後、子ども参加型のポンプ車の放水体験会を行い、多くの方の参加を得ました。これからは、いかに防災に紐付けて「共助」の大切さを訴えていくことが大切だと感じました。



セミナーの様子



放水体験会

矢口トークは「みんなで話し合って、明るく楽しい町づくりをしていきましょう」という意味を込めてつけました。